

講義名	教養特講（生涯学習力）/生涯学習力【非開講】			授業形態	
担当教員	西尾 範博	開講期・曜日・時限	前期 月曜日 3時限		
		単位数	2	履修開始年次	1年生

### 主題と概要

この授業は、生涯にわたって学習し続ける際に不可欠となる自己のマネジメント力とリーダーシップ力を主題とする。それらは、1年次の「自己発見とキャリア開発」で自らの夢や目標を持った学生にとって、その夢や目標を実現する際に不可欠な力となる。また自らの夢や目標を十分に得られていないという学生にとっては、自己のマネジメント力とリーダーシップ力について学びながら、自らの夢や目標を考え、少しでも明確にし、日常生活において実践する機会となることが期待できる。以上の過程を通じて、知識を知恵に変換し、新たな視点と豊かな発想により新しい価値を見いだす機会を提供していきたい。

### 到達目標

(1) 自己のマネジメント力について理解している  
(2) 自己のマネジメント力を日常生活において実践している  
(3) 自己のリーダーシップ力について理解している  
(4) 自己のリーダーシップ力を日常生活において実践している  
以上の4つを目標として、「夢や志を持ち、明るく元気などこにも出て物怖じすることなく、誰とでもしっかりと言葉と交わすことができ、逆境でもたくましく生きぬく」人材を育て、「豊かな社会の実現に貢献できる意欲と能力をもったビジネスパーソン」の育成を目指したい。

### 提出課題

毎回の授業中に示す課題に関するレポートの作成と提出を予定している。詳細は各授業において案内する。

### 課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

毎回の授業で課されたレポートの内容を次の授業の冒頭で話題にし、講評や補足説明等を行って前回の授業内容を振り返り、さらに理解を深める機会を提供するとともに、その日の主題に取り組み基礎となるようにする。

### 評価の基準

期末試験は実施しない。担当教員の講義や学生同士のディスカッション、グループワークにおける積極性、主体性などの毎回の授業に取り組み態度（40％）と、提出課題レポートの出来ばえ（60％）をもとに評価する。その意味では毎回が試験ともいえる。

### 履修にあたっての注意・助言他

この授業では、主体的かつ積極的な学習態度が強く求められる。その意味で、授業は、生涯学習に不可欠な二つの力を身につける実践の場にもなる。この授業に主体的に取り組み、すべての到達目標を達成するということを目指した積極的な受講態度が期待される。授業中の教室でのディスカッションやグループワークはそのための学びの機会であり、日常生活で実践するためのリハーサル機会として熱心に取り組むことが求められる。

### 教科書

.使用しない。

### 参考図書

.なし。

### その他

授業中に随時資料を配布し、参考文献を適宜紹介する。

### 授業計画

1. 生涯学習に不可欠なセルフ・マネジメントとセルフ・リーダーシップ（コントロール可事項とコントロール不可事項、言葉と思考や行動と自己イメージの関係）
2. セルフ・マネジメント論（美意識、外的現実と内的現実、パラダイム転換1）
3. セルフ・マネジメント論（パラダイム転換？ インサイドアウト1）
4. セルフ・マネジメント論（インサイドアウト2、4行日記）
5. セルフ・マネジメント論（時間管理と自己管理、4つのニーズ）
6. セルフ・マネジメント論（言葉と人間関係）
7. セルフ・マネジメント論（4つのニーズについて考える1）
8. セルフ・マネジメント論の振り返りとまとめ
9. セルフ・リーダーシップ論（エゴグラム、エニアグラムによる自己の探求）
10. セルフ・リーダーシップ論（エゴグラムによる自己の探求）
11. セルフ・リーダーシップ論（目的・目標、ビジョン）
12. セルフ・リーダーシップ論（フロー体験、善地獄、自己のタイムライン）
13. セルフ・リーダーシップ論（キャリアビジョン）
14. セルフ・リーダーシップ論の振り返りとまとめ
15. セルフ・マネジメント力とセルフ・リーダーシップ力の実践

### 授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

### 準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の授業で配布された学習用教材資料の内容を1時間かけて復習するとともに、学んだことを次の授業までに3時間以上かけて自身の日常生活で実践し、学びを深めることをもって次の授業に備えることを課す。

### 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

この授業は、上記の主題と概要、授業計画のもとで到達目標の達成をもって、本学のディプロマ・ポリシーである「ネオカ」のひびひ、へこたれずの精神を持った人材、知識を知恵に変換することができる常規的学力、情報分析力、課題発見力、構想力を持った人材、創造力（新しい視点と豊かな発想）を持った人材、自主・自立の精神を持って課題に主体的に取り組み、解決に結びつけることができる人材、仲間と協同して、物事を成し遂げることができる人材を育成することに貢献する。

### 双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

授業内容を理解するだけでなく日常生活において実践しながら学ぶということの連続となるこの授業では、毎回課されるレポートの内容を次の授業で取り上げることに加え、授業中のディスカッション、グループワークの過程を通じて、学生と教員の両者の双方向性を高めながら進め、その過程で到達目標が一つずつ達成されるよう努める。また、レスポンスを使って学生の考えや学びの成果を即時に共有しながら進めていく場もつくり、学生間の学びを共有し、深める機会をつくっていく。

### 実務経験の有無及び活用

### 備考

毎回の授業から多くのことを学ぼうとする意欲に加え、学んだことを自らの日常生活において実践し、役立てようとする姿勢が強く求められる。